

これまでの合同会合での ご意見のまとめ（案）

環境省・経済産業省

これまでの合同会合でのご意見のまとめ（案）

<共通認識>

- 世界全体での1.5度目標実現に向け、野心的な目標・経路を設定する。
- 脱炭素と経済成長の同時達成を目指す。
- 2030年46%削減・2050年ネットゼロを目指す。（ただし、その間の経路について3通りの意見あり（以下））。
- 現在のみならず将来の世代や、気候変動の影響、雇用・産業競争力など考慮することが必要。
- 削減のためには、革新的な技術開発が必要。
- フォローアップをしつつ、目標を実現するための対策・施策の更なる具体化・見直しを行う。

経路 1：2050年ゼロに向かう直線。2035年度60%減、2040年度73%減（事務局提案）

- 1.5度目標と整合的で、野心的な内容である。
- 排出削減と経済成長の同時実現、公正な移行に向け、予見可能性をもって取組を進める。

経路 2：経路 1（直線）よりも急速な削減経路。2035年度66%減以上

- 国際社会に対して、より野心的である、と発信できる。
- 気候危機に不安を感じている将来世代に対し、より責任を果たせる。

経路 3：経路 1（直線）よりも緩やかな削減経路

- 足下のオントラックは生産減退の影響もあり、革新技術の開発・普及には、相当な時間を要する。
- 脱炭素に資する製品・サービスは当初は価格が高く、個人も含めた普及には、国民理解が必要。